

汎用パッケージエアコン 水冷形 MBH シリーズ

形名

MBH-P100MTA MBH-P170MTA

取扱説明書

もくじ	
安全のために必ず守ること	2
1. 各部の名称とはたらき	5
1-1. 本体部分	5
1-2. 操作スイッチ部分	5
2. 運転温度範囲のめやす	5
2-1. 運転温度範囲のめやす	5
3. ご使用方法	6
3-1. 運転前の準備	6
3-2. ふだんのお取扱い	6
3-3. はじめて運転されるとき・シーズンはじめ	8
3-4. 長時間使用しない場合・シーズンおわり	8
4. お手入れ	9
4-1. エアフィルタの清掃	9
4-2. パネルの清掃	9
4-3. 冷却水の入れ替え	9
4-4. 水側熱交換器の洗浄	9
5. ようずがおかしいとき	10
6. 保証とアフターサービス	11
6-1. 機器予防保全の目安	11
6-2. 消耗部品の交換周期目安	12
6-3. アフターサービスご契約のおすすめ	12
6-4. 移設および廃棄について	12
7. フロン排出抑制法	13
8. 仕様	14
8-1. 製品仕様表	14



省エネで 守る環境 豊かな暮らし

このたびはパッケージエアコンをお買上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- ・ ご使用の前に、正しく安全にお使いいただくため、必ずこの説明書をお読みください。
- ・ お読みになった後は、『据付工事説明書』とともに、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ・ お使いになる方が変わる場合、本書と『据付工事説明書』をお渡しください。
- ・ お客様ご自身では、据付・移設をしないでください。(安全や機能の確保ができません。)

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り扱ってください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

 **警告** 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度

 **注意** 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。



- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

一般事項

警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- 使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- 法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。

指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。



禁止

吹出し風を身体に直接当てないこと。

- 吹出し風を身体に直接当てた場合、体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。



使用禁止

冷やし過ぎないこと。

- 冷やし過ぎた場合、体調悪化や健康障害、食品劣化のおそれあり。



使用禁止

吹き出しの風が直接あたる所に燃焼器具を置かないこと。

- 燃焼器具が不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。



使用禁止

改造はしないこと。

- 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

ユニットを水・液体で洗わないこと。

- ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- けが・感電のおそれあり。
- ファン・回転機器により、けがのおそれあり。



感電注意

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- 冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



やけど注意

換気をよくすること。

- 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



換気を実行

換気をよくすること。

- 燃焼器具を使用した場合、不完全燃焼を起こし、酸素欠乏・一酸化炭素中毒のおそれあり。



換気を実行

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆お買い上げの販売店・お客様相談窓口に連絡すること。
- ◆異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

据付台が傷んでいないか定期的に点検すること。

- ◆ユニットの落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

殺虫剤・可燃性スプレーなどを製品の近くに置いたり、直接吹付けないこと。

- ◆変形・引火・火災・爆発のおそれあり。



使用禁止

空気の吹出口や吸込口に指や棒などを入れないこと。

- ◆ファンによるけがのおそれあり。



回転物注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ◆回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

販売店または専門業者が定期的に点検すること。

- ◆ユニットの内部にゴミ・ほこりがたまった場合、ドレン排水経路が詰まり、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。
- ◆においが発生するおそれあり。



指示を実行

食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

- ◆保存品が品質低下するおそれあり。



使用禁止

水回路内の水が凍結する可能性のある地域では、水回路の温度が0℃以下にならないようにユニットを運転する。

- ◆水回路凍結によりユニットが損傷するおそれあり。
- ◆水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

吹き出しの風が直接あたる所に動植物を置かないこと。

- ◆悪影響のおそれあり。



使用禁止

水回路を定期的に点検・洗浄すること。

- ◆水回路が汚れた場合、著しい性能低下や腐食によりユニットが損傷するおそれあり。
- ◆水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆けがのおそれあり。



接触禁止

移設・修理をするときに

⚠ 警告

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ◆冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

お願い

運転を開始する 12 時間以上前に電源を入れてください。

- ◆ ユニット運転期間中は電源を切らないこと。故障のおそれあり。

ユニット内の冷媒は回収し、規定に従って廃棄してください。

- ◆ 法律（フロン排出抑制法）によって罰せられます。

ユニットの使用温度範囲を守ってください。

- ◆ 範囲外で使用した場合、故障のおそれあり。

吹出口・吸込口を塞がないでください。

- ◆ 風の流れを妨げた場合、能力低下・故障のおそれあり。

エアフィルターを外した状態で運転しないでください。

- ◆ ユニット内部にゴミが詰まり、故障のおそれあり。

お願い

- 循環水が止まっている時は、運転スイッチを入れない。

保護装置が作動しユニットは停止しますが、繰り返し運転操作をすると故障の原因になります。

- 循環水は適温を保つ。

循環水が適温でない時、ユニットが停止することがあります。また、繰り返し運転操作をすると故障の原因になります。

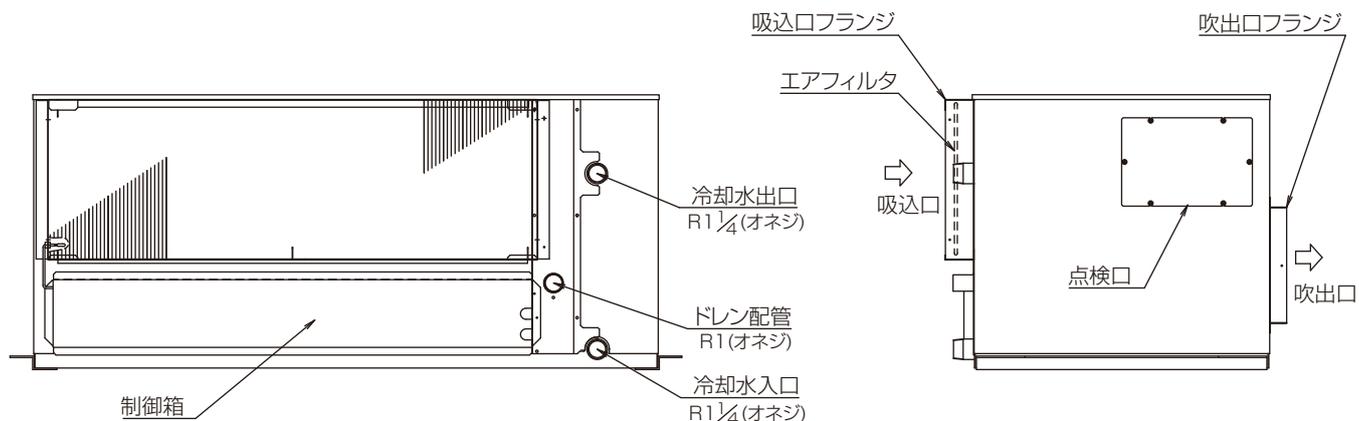
- 運転停止して再運転するときは、3 分以上経過してから運転スイッチを入れる。

3 分以内の発停を繰り返すと、故障の原因になります。

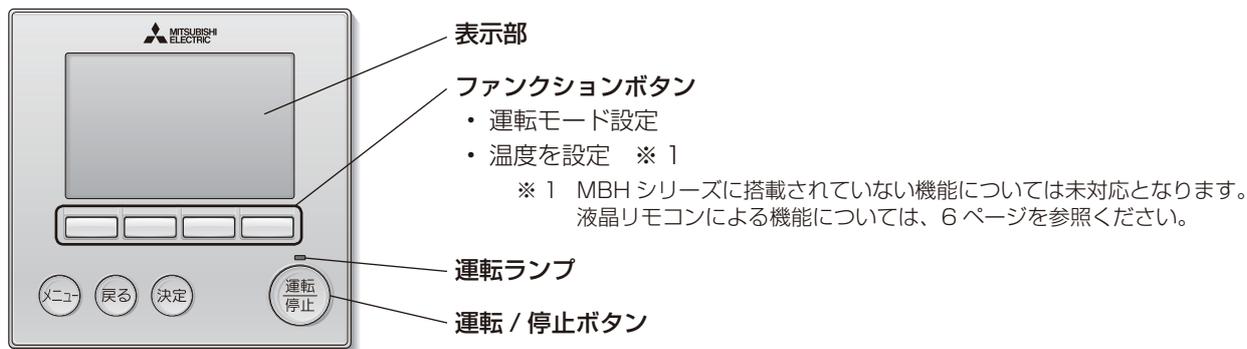
3 分以内の発停時、約 3 分間はエアコンを保護するため送風運転となります。

1. 各部の名称とはたらき

1-1. 本体部分



1-2. 操作スイッチ部分



2. 運転温度範囲のめやす

2-1. 運転温度範囲のめやす

- ・ 風量・水量にも制限があります。
 - ・ 風量・水量によって運転温度範囲が変わる場合があります。(詳細はお買い上げの販売店にご相談ください。)
- ※ 下表に示す温度範囲でご使用いただけますとともに室内の相対湿度は 35 ~ 80%の範囲内でご使用ください。

	室内吸込空気温度 (°C)	入口水温 (°C)
冷房運転	15.0 ~ 24.0 (湿球温度)	15 ~ 40 (推奨値は 25°C ~ 30°C)
暖房運転	17.0 ~ 27.0 (乾球温度)	15 ~ 40 (推奨値は 25°C ~ 30°C)

水量

形名	標準水量 (50Hz/60Hz) [m ³ /h]
MBH-P100MTA	1.9/2.2 (許容範囲: ± 20%)
MBH-P170MTA	3.2/3.7 (許容範囲: ± 20%)

3. ご使用方法

3-1. 運転前の準備

クランクケースヒータの通電

潤滑油のフォーミング（泡立ち）防止用クランクケースヒータは圧縮機停止時のみ通電します。

半日以上電源停止した後再運転する場合には運転 3 時間前には、電源投入し、潤滑油を加熱してください。

3-2. ふだんのお取扱い

リモコン機能表

機能	設定	表示	内容			
運転 / 停止	○	○	運転 / 停止の切替ができます。			
運転モードの切替	○	○	冷房 / 送風 / 暖房の切替が可能。			
室温設定	○	○	下記の範囲で温度設定が可能。			
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>設定温度範囲</th> <th>冷房運転時</th> <th>暖房運転時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>19℃ ~ 30℃</td> <td>17℃ ~ 28℃</td> </tr> </tbody> </table>	設定温度範囲	冷房運転時	暖房運転時
設定温度範囲	冷房運転時	暖房運転時				
	19℃ ~ 30℃	17℃ ~ 28℃				
風速設定	×	○	風速は、1 速となります。			
手元操作への禁止 / 許可	×	○	集中コントローラからの設定により、運転 / 停止、運転モード、設定温度、フィルターリセットの操作が禁止されます。 ※ 禁止中は「集中管理」が点灯。			
運転モードの切替制限	×	○	集中コントローラからの設定により、モード切替の操作が禁止。			
異常表示	—	○	現在発生している異常内容を、アドレスとともに表示。			
タイマー運転	○	○	週間スケジュールタイマー対応。(PAR-38MA, 40MA の場合のみ) 簡易タイマー / 消し忘れタイマーの何れかを使用可能。 ・簡易タイマー : ON/OFF を 1 回行うタイマー ・消し忘れタイマー : 運転後に一定時間経過すると停止するタイマー			
温度設定範囲制限機能	○	○	初期設定により、室内設定の温度範囲を制限することが可能。			
操作制限機能	○	○	リモコンスイッチの操作ロックの設定 / 解除が可能 運転 / 停止、運転モード、設定温度のそれぞれをロック (PAR-38MA, 40MA の場合) ・全スイッチロック、または運転 / 停止スイッチ以外のスイッチロック (PAR-26MA2 の場合)			

※○ : グループ別操作 / × : 対応不可

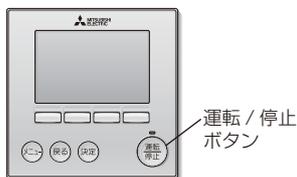
3-2-1. 運転

手順

1. クーリングタワーなどのポンプの電源を入れる。



2. 液晶リモコンの[運転/停止]ボタンで運転が行われます。



3. 運転モードの選択、設定温度の設定はファンクションボタンにて行います。
(PAR-38MA の場合)



お知らせ

- 温度調節は、リモコンに内蔵の温度センサを使用し行います。吸込ダクト利用時は、ユニット本体の温度センサを使用することもできます。
- ※ユニットの制御基板の設定変更が必要となります。本体ユニットの据付工事説明書を参照ください。

3-2-2. 停止

手順

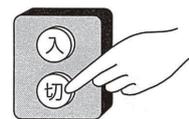
1. 液晶リモコンの[運転/停止]ボタンで停止します。



2. 電源開閉器のスイッチを切ります。



3. クーリングタワーなどのポンプの電源を切ります。



お知らせ

- 停電などで運転が停止した場合、停電が回復したとき、自動復帰で運転を行います。

3-3. はじめて運転されるとき・シーズンはじめ

クランクケースヒータの通電

潤滑油のフォーミング（泡立ち）防止用クランクケースヒータは圧縮機停止時のみ通電します。

半日以上電源停止した後再運転する場合には運転 3 時間前には、電源投入し、潤滑油を加熱してください。

手順

1. クーリングタワーの水槽部分を清掃します。



2. 循環水配管のストップバルブを開きます。



3. クーリングタワーなどのポンプの電源開閉器を入れ、循環水が流れていることを確かめてください。



4. 電源開閉器のスイッチを入れます。
(パネル等を必ず取付けてから電源を入れてください。)



3-4. 長時間使用しない場合・シーズンおわり

手順

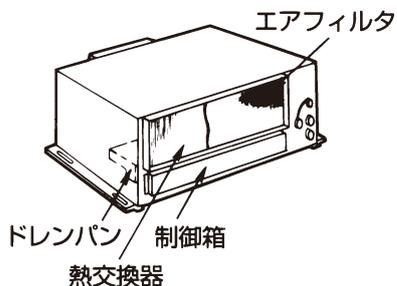
1. 電源開閉器のスイッチを切ります。



2. 循環水配管のストップバルブを閉じます。



3. エアフィルタの清掃及びドレン排水を確認します。



エアフィルタの清掃は、「4-1. エアフィルタの清掃（9 ページ）」をご覧ください。

お願い

- ・ お買上げ店にご相談のうえ、循環水のお手入れも心がけてください。

4. お手入れ

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- ・けが・感電のおそれあり。
- ・ファン・回転機器により、けがのおそれあり。



部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ・けがのおそれあり。



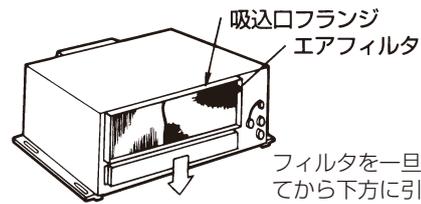
4-1. エアフィルタの清掃

- ・1週間に1度が清掃の目安です。
- ・エアフィルタにゴミがたまると、冷暖房能力の低下や故障の原因になります。

手順

1. エアフィルタを取り外す。

- ・フィルタは通常室内ユニットの吸込口側に取付けてあります。取付位置と取外し方法については販売店などに確認してください。
- ・室内ユニットの吸込口側に取付けている場合は、右図を参照してください。



フィルタを一旦上に押し上げてから下方に引出します。

2. 取外したエアフィルタのホコリを掃除機で吸取るか、水洗いする。

- ・汚れがひどいときは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯で洗ってください。
- ・50℃以上の熱いお湯をかけないでください。変形することがあります。
- ・もみ洗いや強く絞ることはさけてください。
- ・すすぎは十分に行い、洗剤が残らないようにしてください。



3. 水洗いしたときは、日陰でよく乾かす。

- ・直射日光や直接火に当てて乾かさないでください。変形・変色することがあります。

4. エアフィルタを元どおりに取付ける。

4-2. パネルの清掃

中性洗剤をやわらかな布にふくませて拭き、最後に乾いた布で洗剤が残らないように拭きとります。



お願い

ベンジン・シンナーの使用はさけてください。



4-3. 冷却水の入替え

クーリングタワーをご使用の場合、冷却水を定期的に入れ替えるか、水処理剤を使用してください。とくに大都市や工場地域などでは、冷却水は汚染されやすく、そのまま放置すると水側熱交換器や水配管を腐蝕して、故障の原因となります。

なお、冷却水の水質基準は、日本冷凍空調工業会標準規格 JRA-GL-02-1994 に定められた水質基準値以下となるようにしてください。

くわしくは、お買い上げ販売店にご相談ください。



4-4. 水側熱交換器の洗浄

長期間ご使用になりますと、水側熱交換器に水アカ、コケなどがつき、機能を損ないます。1シーズンに1回程度（水質の悪い所では回数を多くして）、お買い上げ販売店にご相談の上、水側熱交換器を洗浄してください。洗浄しないと腐食の原因となります。



5. ようすがおかしいとき

お願い

原因・確認事項に従って処置を実施しても正常に戻らない場合は、お買い上げ店へご連絡ください。



症状	原因・確認事項	処置
エアコンの風がおう。	壁や家具などにしみ込んだにおいを吸い込んで、風を吹き出すためです。	故障ではありません。そのままお使いください。ただし焦げ臭いなど異常なおいがする場合は、運転を停止しお買い上げ店にご連絡ください。
“ピシッ” という音がする。	温度変化でパネルなどが膨張・収縮してこすれ合う音です。	故障ではありません。そのままお使いください。
“プシュッ” という音がする。	エアコン内部の冷媒の流れが切り換わるときの音です。	故障ではありません。そのままお使いください。
水の流れるような音がする。	エアコン内部の冷媒が流れている音です。	故障ではありません。そのままお使いください。
送風機・圧縮機のどちらも動かない。	停電ではありませんか。	運転スイッチを『切』にして電源が回復するのを待ちください。
	ノーヒューズブレーカまたはヒューズが切れていませんか。	ブレーカを入れるかヒューズを交換してください。
	電源電圧が適正ですか。	電力会社にご連絡ください。
送風機がまわるが圧縮機が運転しない。	温度調節が適切になっていますか。	温度調節を確認して設定温度を調節してください。
	運転温度範囲外ではありませんか。 「2-1. 運転温度範囲のめやす」参照 (5 ページ)	運転できません。
	停止後、すぐに運転ボタンを押していませんか。	約 3 分間お待ちください。 エアコンを保護するため止まっています。
圧縮機が動くがすぐ止まる。	空気の吸込口・吹出口をふさいでいませんか。	障害物を取り除いてください。
	循環水が流れていますか。	クーリングタワーまたはポンプの電源を入れてください。バルブが閉じていれば開いてください。
よく冷えない。 暖まらない。	空気の吸込口・吹出口をふさいでいませんか。	障害物を取り除いてください。
	エアフィルタが汚れていませんか。	清掃・交換してください。 「4. お手入れ」参照 (9 ページ)
	窓や扉が開いていませんか。	閉めてください。
	温度調節が適切になっていますか。	温度調節を確認して設定温度を調節してください。
リモコンにエラーコードが表示される。	空調機に障害が発生し運転を継続できずに停止しています。	エアコンの電源を切り、お買い上げ店にリモコンの表示内容を連絡してください。 ※自分では絶対に修理しないでください。

6. 保証とアフターサービス

- ・ ご不明な点や修理に関するご相談はお客様相談窓口にお問い合わせください。

6-1. 機器予防保全の目安

保全周期は保証期間を示しているものではありませんのでご注意ください。
定期点検実施の場合でも予期できない突発的偶発故障が発生する事があります。

表-1. 点検周期および保全周期

主要部品名	点検周期	保全周期 [交換または修理]	主要部品名	点検周期	保全周期 [交換または修理]
圧縮機	1年	20,000 時間	膨張弁	1年	20,000 時間
モータ (ファン、ルーバ、ドレンポンプ用など)		20,000 時間	バルブ (電磁弁、四方弁など)		20,000 時間
ベアリング		15,000 時間	センサ (サーミスタ、圧力センサなど)		5年
電子基板類		25,000 時間	ドレンパン		8年
熱交換器		5年			

- ※ 1 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。
本表には MBH に使用していない部品も含めて記載しています。
- ※ 2 この保全周期は、製品を長く安心してご使用いただくために、保全行為が生じるまでの目安期間を示していますので、適切な保全設計（保守点検費用の予算化など）の為に役立ててください。また保守点検契約の内容によっては本表よりも、点検・保全の周期が短い場合があります。

6-1-1. ご使用条件

「表-1. 点検周期および保全周期」は、以下のご使用条件の場合です。

- 1) 頻繁な発停のない、通常のご使用状態である事。
(機種によって異なりますが、通常のご使用における発停の回数は、6回/時間以下を目安としています。)
- 2) 製品の運転時間は、10時間/日、2,500時間/年と仮定しています。
また、下記の項目に適合する時には、「保全周期」及び「交換周期」の短縮を考慮する必要があります。
 - ・ 温度・湿度の高い場所、あるいはその変化の激しい場所でご使用される場合。
 - ・ 電源変動（電圧、周波数、波形歪み等）が大きい場所でご使用される場合。（許容範囲外での使用はできません）
 - ・ 振動、衝撃が多い場所に設置されご使用される場合。
 - ・ 塵埃、塩分、亜硫酸ガス及び硫化水素などの有害ガス・オイルミスト等良くない雰囲気でご使用される場合。
 - ・ 頻繁な発停のある場合、運転時間が長い場合。（24時間空調等）

6-1-2. 補修用部品の保有期間について

このエアコンの補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後9年間となっています。
この期間は経済産業省の指導によるものですが、当社はこの基準により補修用部品を調達した上修理によって性能を維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理を実施致します。

6-2. 消耗部品の交換周期目安

交換周期は保証期間を示しているものではありませんのでご注意ください。

表-2. 交換周期

主要部品名	点検周期	交換周期	主要部品名	点検周期	交換周期
ロングライフフィルタ	1年	5年	ヒューズ	1年	10年
高性能フィルタ		1年	加湿エレメント		5年
ファンベルト		8,000時間	クランクケースヒータ		8年
平滑コンデンサ		10年			

※1 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。

本表には MBH に使用していない部品も含めて記載しています。

※2 この交換周期は、製品を長く安心してご使用いただくために、交換行為が生じるまでの目安期間を示していますので、適切な保全設計（部品交換費用の予算化など）の為に役立ててください。

6-3. アフターサービスご契約のおすすめ

当社指定のサービス会社と保守契約（有料）いただければ、専門のサービスマンがお客様に代わって保守点検を致します。万一の故障時も早期に発見し適切な処置を行う事が出来ます。

- 良好な状態で長く安心してご使用いただくために、お客さまに実施していただく日常点検（フィルタ清掃など）以外に専門技術者による定期的な保守点検を実施してください。

標準的な保守点検の、「点検周期」及び定期点検に伴う「保全周期」「主要部品の交換・修理実施周期」は、「表-1. 点検周期および保全周期（11 ページ）」を目安にされると便利です。

また、代表的「消耗部品」の例を「表-2. 交換周期」に示します。

なお、保守点検の内容は契約会社によって若干異なる場合がありますので、契約時によく確かめください。

6-4. 移設および廃棄について

- 転居などでエアコンを移動再設置する場合は専門の技術が必要ですので、お買上げの店またはメーカー指定のお客様相談窓口にご相談ください。
- エアコンを廃棄される時は冷媒の回収などが必要ですので、お買上げの店またはメーカー指定のお客様相談窓口にご相談ください。

7. フロン排出抑制法

ユニット本体を廃棄される時は、フロン排出抑制法で冷媒の回収が定められています。お買い上げの販売店、または、メーカー指定のサービス店、またはお客様相談窓口にご相談してください。

この製品はフロン排出抑制法・第一種特定製品です。



製品に表示されている左記のシンボルマークは、パッケージエアコンに温暖化ガス（フロン類）が封入されていることをご認識いただくための表示です。

この製品はフロン排出抑制法の第一種特定製品です。廃棄・整備をするときには、都道府県に登録された第一種フロン類回収業者にフロン類の回収を依頼してください。

製品にはフロン類の種類・GWP（地球温暖化係数）が表示されています。

- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
- 冷媒の種類及び数量並びに GWP（地球温暖化係数）は、定格銘板に記載されています。

8. 仕様

8-1. 製品仕様表

項目		形名	MBH-P100MTA	MBH-P170MTA
		冷房能力	kW	9.0/10.0
暖房能力	kW	10.6/11.2	17.0/19.0	
電源	—	三相 200V 50/60Hz		
圧縮機出力	kW	2.2	3.7	
冷媒	種類	—	R410A	
	封入量	kg	1.41	2.015
送風装置	風量	m ³ /min	30/30	37/39
	標準機外静圧	Pa	80/120	85/140
	送風機出力	kW	0.3	0.3
冷却水	冷房時の入口水温	℃	30	
	暖房時の入口水温	℃	25	
	水量	m ³ /h	1.9/2.2	3.2/3.7
	水圧損失	kPa	20/28	25/34
外形寸法	高さ×幅×奥行	mm	557 × 1388 × 706	577 × 1388 × 706
製品質量		kg	144	165



愛情点検



●長年ご使用のエアコンの点検を!

エアコン補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後9年です。

ご使用の際、このようなことはありませんか?

- 運転音が異常に大きくなる。
- 室内ユニットから水が漏れる。
- 電源が頻繁に落ちる。
- その他の異常や故障がある。

ご使用中

故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

後日のために記入しておくとう便利です。

お買上げ店名

電話

お買上げ（据付）日

年

月

日

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機冷熱応用システム株式会社

〒640-8686 和歌山市手平6丁目5番66号
(三菱電機(株)冷熱システム製作所内)

WRM0239X03